

【議事録】第3回 策定委員会

- 開催日時：令和7年2月4日（火） 13時00分～15時00分
- 場 所：本庁3階 特別会議室
- 議 題：1. まちづくりの方針（ターゲット）
将来像（コンセプト/キャッチフレーズ）の検討
2. 立地適正化計画 誘導区域、誘導施設
誘導区域、誘導施設の確認
3. 立地適正化計画 防災指針
防災指針のハザードの課題認識と対応の確認

■協議事項

～～資料説明～～

■質疑応答・意見交換

質疑応答、意見交換については下記に示すとおりである。

◇まちづくりの方針（ターゲット）将来像（コンセプト/キャッチフレーズ）の検討について

- 会長) 説明資料 P26 にまちづくりの方針(ターゲット)として案が5つほど出されている。皆さんが鏡野町に対してどのような将来になってもらいたいのか、また説明を受けて感じたことがあればお伺いしたい。
- E 委員) 人材、そして建設費が高騰している。例えば、新病院と同規模の病院で計画凍結しているところもある。
- 会長) 公共建築に関して、全国どこであっても当初の予算から大幅に人材不足含めて費用がかかる状況にある。今後未来、こういったことが続いてしまう場合、我々が思い描くことが実現できなくなってしまう懸念がある。そういったこともここでは取り上げる必要がある。
- F 委員) キャッチフレーズとしては、こどもに限らず、鏡野町住民の皆さんが、元気に暮らしやすいまちになるのが一番かと思う。
- 会長) キャッチフレーズに使われている「未来」は次の世代を担うこどもを意識しているが、F 委員からはそれだけでなく、今住んでいる方々も含めて、もう少し世代を広げて考える必要あるのではないかというご意見ではないかと思う。
- G 委員) 色々良いキャッチフレーズがあるが、元気が出るようなものが一番かと思う。元気があつてこどもが生まれて、お年寄りの世代と1世代だけでなく、2世代、3世代目も続いていけるようなことがいいと思う。
- 会長) 「元気」がキーワードとしてあるのかと思う。また、2世代3世代ということからすると、F 委員も言われたように、こどもに限らず、幅広い世代、多世代に結びつい

てくる。

H委員) F委員の意見に付随するが、「こども」に焦点を当てがちだが、皆さん同様ここで暮らすわけであり、こどもたちもいつか大人になるため、20年先を考えた場合「こども」をキャッチフレーズに使うより「人」に焦点をあてる、もしくは今どうあるべきかに焦点を当ててから、それが20年先も続けばいいという観点で考えたほうがいいのではないか。

会長) ご意見いただいた委員に共通したこととして、「多世代」的な言葉がいただけたと思う。そこは非常に大切である。

D委員) 何をもって住みやすいとするのかは、皆さんいろいろな答えがあるのではないかとと思う。20年先に関わらず、こどもたちがいて、鏡野に住みたいというニュアンスがあればいい。20年先、こどもたちがいるのかはわからないため何とも言えないが、町に住みやすいと思ってくれるような何かがあれば良い。

会長) 今の話では、町内でこどもが育つだけでなく、町外からも何か人が関わってくるといってお考えであれば、交流や関係人口、あるいは移住に結びついてくることも考えられる。

C委員) 私は仕事柄、小さいお子さんがいる家庭や高齢者の方を対応することが多い。鏡野町におられる方全員に対して、どういうふうな住みやすい環境を作っていくのかを、キャッチフレーズの中には入れていただきたい。こどもには、次世代や孫世代などあるかと思うが、そういった事に限らず、町に住む皆さんが、輝いて、将来的にも安心安全に暮らせる環境、町外から入ってきやすい環境などを踏まえたキャッチフレーズを考えて頂きたい。案としては⑤を少し変えたらいいのではないかとと思う。例えば「未来が花開く」ではなくて「未来が輝く」など、何か皆さんに対してのキャッチフレーズを考えて頂けたらと思う。

会長) 案⑤をアレンジという具体的な提案があったため、ぜひ参考にさせていただきたい。

A委員) 立地適正化計画がなぜ出てきたのかを考えている。例えば、防災もあるが、一番は人口減少の中でどう都市機能を維持していくのか、どう高めていくのが大事だと思う。20年先も、鏡野町の方がいきいきと活気づいて生活できる、安心したまちづくりが一番だと思う。他の委員のご意見にもあったが、こどもに限定することなく、いろんな人を含めたキャッチフレーズが良いかと思う。「元気な」という言葉を取り上げるが、先ほどの説明では経済力を表すとおっしゃっていた。だが、「元気な」という言葉からは肉体的・精神的に健康的である、すこやかであるといった意味にとってしまうので、その他の言葉、「いきいきとした」「活気のある」という言葉でもいいのかと思った。

会長) 言葉の持つ意味として、「元気」は健康といったことを連想させるが、もう少し違った言葉に変えることによって、他の要素を網羅した意味合いを持たすことができるのではないかと、というご意見だと思う。キャッチフレーズについて意見を出していただいたが、全体的にはこどもに限らず、もう少し広い世代に目を向けるといったところが大事じゃないかという意見を多くいただいた。

会長) 今の議題はキャッチフレーズの話ではあるが、事務局からのご説明をいただく中で、

居住誘導区域や都市機能誘導区域を図面とともに皆さんにお示しされていた。事務局の方も現地の実態を把握しながら書いた絵のため、ほぼこれは間違いないのではと思うが、皆様方から客観的に見ていただいて、この区域はこちらにもあるのではないか、これは範囲が大きすぎるのではないかなど、何か気づきがあれば伺いたい。また、都市機能については現状皆様方がお住まいの身の回りを考えていただければ、医療機関や公共機関含めて、配置などの想定はつくと思う。それから、居住誘導区域については、私も街の中を案内していただく中で、開発や新しい家に建て替わっているような場所があちこちにあるのではないかなと思う。特に農地で営農ができなくなっている場所に関しては、宅地化をされることになるかもしれない。10年、20年先を見据えた、皆さんが懸念されていること、こういったことが想定されるのではないかな、こういったところにも人はもっと住んでいくのではないのかななどを伺えとありがたい。

- H委員) 20年先を考えたとして、P20 将来都市構造の国道 179 号沿いに鶴喜保育園がある。周辺には分譲地があり、居住誘導区域になるのではと思う。中心地から少し離れたところなので海外の方に需要があるのではないかな。
- 町) 後ほど居住誘導区域の設定内容を説明させて頂くが、鶴喜保育園周辺に関しては中心拠点からの距離圏の要件にて外れてしまう区域であり、居住誘導区域には入れることができないエリアとなる。
- 会長) H委員さんの意見が非常に大切であり、10年、20年先を想定した場合には考えられるのではないかな。居住誘導区域では基準にそって誘導区域を設定されるのだが、もう少しぼやかした形でもう一つの区域を設定することができないのか。これは新しいチャレンジで県にも相談しなければならないが、委員さんの意見でもあるため、そういったことが想定されるエリアを、例えば誘導想定区域など、何らかの形で表現しておいた方が良いのではと私は思う。
- 昭和) 居住誘導区域をいたずらに大きくしすぎることは懸念がある。コンパクトで持続可能な都市を作ることが一番の趣旨である。誘導できるエリアということで参考にさせていただくが、ある程度コンパクトにしていくという思想の中で県と相談させていただく。

◇立地適正化計画 誘導区域、誘導施設の確認について

- 副会長) キャッチフレーズの件だが、全体的を得ようとしすぎて入れすぎているのではないかな。もっと簡素化した方が良い。他県では、なにもない町から「サウナのまち」になった自治体がある。近隣自治体では温泉がたくさん出るがその町には一つも温泉がない。人を呼べないかということで、綺麗な川が流れている場所に仮設のサウナを作り、その川に飛び込んだら気持ち良かったことからひらめいて、そこをサウナの街にした。訪問客は10倍以上になったという。鏡野町もその町と地形が似ている。それをヒントに何をしたら人が集まるのか。人がたくさん集まれば、雇用も増える。雇用が増えればお年寄りの方もお手伝いに参加し、雇用の面で元気になれる。そう

いった、元気で雇用を増やすようなまちづくりにしたらいいと思う。

会長) キャッチフレーズの話ではあったが、呼び寄せた人をどういうふうに住んでもらうのかという観点からすると居住誘導区域にも関係のある話なのかと思った。委員からも話があったように、現状のままでは人は来ないし増えることもない。町の方々が将来、どう対応していくか。その一つのヒントが、観光を積極的に取り入れながら人を呼び寄せていくこと。交流や関係人口の増加を図り、移住による新しい住民を増やしていく。また、雇用の話もされていたが、今後日本人の人口が減少することを考慮すると、外国人雇用をどういうふうを考えるのか。そういった方にはどこに住んでいただくのかということも、居住誘導区域に関係するかもしれない。病院の関係であれば、そういった外国の方に介護を委ねるところもあるかと思う。そういったことが、居住誘導区域に影響するかもしれない。事務局からの説明を自分の身の回りにおき変え、こういった人が入ったときにどこに住んでもらうかなどを考えてもらって議論が発展してくるかもしれない。

E 委員) 来年度から、外国人の方複数名雇用の予定がある。東南アジアの方。病院のすぐそばではなく、津山市などのアパートを借りられる。ただ、個人的な意見として、簡単ではないと思うが、日本人が嫌がる仕事を外国人にしてもらおうのではなく日本人にして頂きたい。

会長) 様々な地域で、ある場所に外国人がまとまって住む傾向がある。場合によっては外国人雇用で人を増やすのも、施策の一つとしてあるのかもしれない。

F 委員) 奥津振興センター周辺が農村交流拠点となっている。奥津のほうでも後継者がおらず稲作のできないところが増加している。何をもって農村交流拠点に決めたのか。

昭和) 説明資料 P13 の農村交流拠点の名称に関しては、制度の話として、立地適正化計画での名前が中心拠点、地域生活拠点であり、農村交流拠点や地域都市拠点は、県の上位計画に当たる都市計画区域マスタープランに位置づけられた名称である。そのため、農地があるからという話ではなく、説明資料 P22 に記載の通り、「集落の中心となる小学校区、公民館などの周辺、複数の集落が集まる地域の拠点、地域都市拠点への中心拠点へのアクセス性の維持向上を図り、地域の生活サービス維持、住民によるコミュニティ作りを促進する」という位置づけのエリアである。

会長) F 委員の意見に対して、計画に位置づけがあったからでは説明になっていないと私は思う。ここは農村交流という名前にふさわしい場所だと、町民の納得が必要である。例えば、農地を活用した農業体験型のツーリズム観光など、町の施策を位置づけるならばこの名前はいいかと思うが。

F 委員) 会長が言われた通り将来が見えないため、交流地点になるのかと疑問に思う。

町) 現在、公共交通の再編を検討しており、本計画に基づいて公共交通の計画を策定するため、整合性を図る上でも農村交流拠点に設定している。

会長) 拠点はいいと思うが、名前が農村や交流とついた時点でお住まいの方とちょっとずれがあるのではないかと。そこは一旦持ち帰り、再度示して頂きたい。

G 委員) 鏡野町の奥の方はなにもないいつも思う。奥津振興センターを中心とした観光を一生懸命取り組んでいきたい。また、ふるさと納税に関して、NHK で日本全国の色分

けを確認したところ、鏡野町は真っ白だった。ふるさと納税をしていただけるような特産品の援助や指導が必要ではないか、それが財政的にもいいのではないかと思います。私たちがふるさと納税をする場合、牛肉やリンゴなど、特産品を目当てに取り寄せたこともあるかと思う。鏡野町の場合はぶどうやなめこなどを特産品とすることが考えられる。そして、ふるさと納税によっては多額の予算につながる可能性もあるため、特産品の指導を農村交流拠点で行うことも考えられる。

会長) ふるさと納税は自治体の財源を支える手段となっている。多くは、返礼品という形で地場産業の物を送っているが、もしかしたらその特産品と同時に、農村交流といった形で何か体験型の返礼品。例えば、観光と掛け合わせ、人に来ていただいて、地域を巡っていただいて、その場で何かを味わっていただくといった新しい発想があるのかもしれない。

H委員) バスによって中心拠点へ人を誘導する話があった。都市機能誘導区域内を歩いていただくとあったが住民は車で移動するため、区域内に車で来て、車で走ると思われる。そのため、バスがもうすこし利便性が良くなればと思う。バスで来て歩く構造ができないかと思った。歩くとまた違ったものが見えてくる。車で来るここに住んでいない方とでは、このエリアの機能の目指すところが違ってくると思われる。バスやタクシーによって、奥津地域だけではなく、鏡野町の西側などで不便な所があるならバスを巡回させるのが良いかと思う。

会長) コミュニティや福祉、観光を目的とした地域循環バスなど、鏡野町なりの地域循環バスのコンセプトを設定し、ある地点までは歩いて観光してもらおうといった、何かを掛け合わせることができると面白いかもしれない。

D委員) 都市機能誘導区域内に充実・集約していくが、町民で何年か後に移住を希望する方はいるのだろうか。土着の方や地元が好きな方がおられるため、実際問題としては、そういった場所に外部の方が来られてコミュニティを作ることが考えられる。そういった方の住まれる場所が役場周辺に集約しているのは便利だと思われる。20年後に町民が何人集まるのかはわからないが、外部から来られる方が住まれる場所として役場周辺がにぎわっていただければいい。観光方面では外貨を持ってきたかかないと、仕事の場所があったとしても何人増えるのか、できる人が何人おられるかということになる。海外の方にも来ていただいてお金を落としていただいて帰っていただくような何かを作ることができれば財政的にも潤う。

会長) 外国人の方に観光などで来ていただくと、経済的に潤う。一方で、例えば埼玉の川口のように、その地域に定住される場合には、それに伴う問題の発生も考えられる。対策あるいは施策を加味した上で、受け入れるか受け入れないかの判断をすることになるかと思う。

C委員) 各地域振興センターの周辺に農協のATMを設置している。奥津支店の管轄で言えば、奥津、上齋原にATMを設置しているが、拠点の利用者が少なくなれば当然、支店の統廃合の可能性もある。お客様の意向によってATMを設置しているが、利用者が少なくなればATMコストがどんどん高くなっていく。使用いただければコストが下がるという考え方のため、集落が10年20年後、人が少なくなる場合には、ATMを撤

退せざるを得ないということも想定される。逆に、鏡野支店では ATM の利用者数が飛び抜けて多い。1 月 14 日に ATM を 2 台に増設した。利用者のことを考える場合、ATM を設置しておかなければという思いはあるが、利用者が減ると撤退せざるを得ない。

昭和) 中心市街地だけではなく、集落振興センター周辺も同様の暮らしができるための様々な制度がある。例えば、小さな拠点を活用し、そこでの生活を確保していくなどのやり方がある。いただいたご意見を参考に施策に生かす。

A 委員) 誘導区域に関しては人口減少していくため、外から鏡野町に入っていただくのが適当ではないかと思う。その場合、現在居住されている方の希望だけでなく、どういう施設が町内にあれば外から人が住んでくれるのかということも調べた上で施設を考えてもいいのかと思った。重なる部分もあるかとは思いますが、全く想定していないことを希望されているかもしれない。それをすり合わせた上で居住誘導区域を定めてもいいかと思った。また、様々な拠点があるのだが、一番は町民のご理解だと思う。各拠点がこの場所でいいのか、適切なのかご意見をきいて修正・改善をする必要がある。そして、観光に関しては、綺麗な川・豊かな自然などの魅力を PR できるような方策はないのか。最後に現在、物価高で野菜の高騰がニュースで話題となっているが、利用できる土地があると思うので、そこから力を入れていくと経済的に豊かになるのではないのかと思う。

会長) 観光に関しては、お話にあったように拠点ごとにどんなものがあって、どういうかたちでネットワークするのかということだと思う。農業の話もあったが、何か体験を絡ませたり、ふるさと納税みたいなものをリンクさせたりと、工夫の余地がある。

副会長) 観光に関して、他県の温泉には中国の方が多くいる。中国の方はレッドノートというアプリで知ったとのことである。例えば、恩原高原のスキー場に中国の方を連れて行ったのだが、恩原高原の駐車場から一歩出ればスキー場であることを彼らは珍しがっていた。私たちの気付かないことが分かって、これは有用だと思った。私もレッドノートにて鏡野町のことを発信していきたいと考えている。

会長) 町一丸となって、発信できればと思う。例えば外国の方は観光で訪れる際、雪があるだけでそこに行くなど、私たちと違った感覚でその場所を訪ねる方が多くおられる。雪に限らず、鏡野町の資源の見せ方によって、様々な方に来ていただくことができるのかと思われる。

県) 居住誘導区域に関して解説させていただきたい。居住誘導区域は将来にわたって人を集めていこうという区域であり、町の骨格になる。居住誘導区域は現状の人口密度が確保され、将来の人口等の見通しを踏まえた適切な範囲に合わせて設定すべきと国のマニュアルに記載されている。人が多く居住している地域は、用途地域を設定しているが、用途地域内に居住誘導区域を設定し、コンパクトにしていくことが一般的な手法である。鏡野町の場合は、居住系の用途地域がないため、居住誘導区域を設定するということは、町の将来に向けてどこに人を集めるのかという非常に大切な話であり、土地利用をどのようにしていくかを踏まえ、適切な範囲を設定する必要がある、立地適正化計画の核になるということをご認識いただきたい。国が

策定している立地適正化計画の手引きがあり、その中に人口の推移や、将来の推計人口の内訳などを踏まえて、現実的に誘導可能な人口を検討し、都市機能やコミュニティが持続的に確保されるように誘導区域を設定する必要があるとも記載がある。今回の区域案の規模が適切であるかどうかポイントであり、将来の人口や人口密度、それから今後の土地利用を含めて、区域が妥当であるかどうかというのが1点目、2点目は都市機能やコミュニティが持続できるかどうかである。先ほど委員もおっしゃられているが、都市機能を持続できるかといった観点から区域を設定することが必要になる。これらを踏まえて本当にこの居住誘導区域は妥当であるのかをご議論いただいた方がいい。

会長) 県の方に補足していただいたが、委員にご意見をいただく中で、今の居住誘導区域はこれでいいとしても、10年20年後を見たときに、おそらくこんな可能性があるのではないかとこのところを、例えば居住誘導区域といったかっちりとしたものではなく、もう一つ何かこの区域にぼかして描いておくのは駄目なのか。

県) 居住誘導区域ははっきり区域を決める必要があり、ぼかすということではなく、将来本当に土地利用としてそこを使っていくかどうかという議論の上で設定すべきものとする。ただし、居住誘導区域を変更できないことはないが、変更する説明責任を負うと思われる。今回私が発言させていただいたのは、将来の人口、人口密度を鑑みて、本当にこのエリアが妥当なのか、都市機能は維持できるのかという観点を事務局の方から説明をする必要があることから、再度よく考えたうえで設定しなければならないのではないかとこのことで申し上げた。

会長) わかりました。立地適正化計画の居住誘導区域は今言った通り、かっちりしたところはあるが、それが例えば都市マスみたいなどころでの表現は可能か。

県) 都市マスの方については、もう少し大まかなエリアでの設定は可能かと思う。ただし、立地適正化計画では具体的なエリアになるため、どのように都市マスとの整合を図るかという整理は必要である。

◇立地適正化計画 防災指針のハザードの課題認識と対応の確認

会長) 防災指針は非常に大切な部分であるが、時間の関係もあり、次回に少しづれこむことは可能か。

昭和) 可能だと思われる。参考資料に詳しく記載しているため、それを見ていただき、次回ご質問があれば、受け付けたい。

会長) 防災に関して、関係が深いと思われる病院についてお聞きしたい。

E委員) 6年前の水害の際、病院の裏のT字路の護岸が崩れかけた。決壊こそしなかったが、もしそこが決壊した場合は、病院1階の浸水による機能低下や、周囲へのアクセス道路の浸水、充電設備・タンク・サーバーの浸水が懸念される状況だった。それまで水害の想定をしておらず、恐怖を感じた。短時間での豪雨といえば平成10年の豪雨がある。そのときは台風が原因であったが、短い時間で急に水量が上がった。水害対策を少しでも早く実施したいと考えていたが、タイミング悪くコロナ禍や物価

高騰になり、できていなかった。本当危惧しているところである。最近は物価高騰によりさらに防災事業の実施が難しくなっている。全ての事業に通じるが、どこまで実現できるのかを考える必要がある。

会長) 皆様からご意見いただく中で、特にキャッチフレーズに関しては、事務局提案の「子どもを対象としたもの」ではなく、「もっと幅広い年代の多世代にわたるようなところ」が皆さんの共通した認識であるという話が出た。そういったことから、キャッチフレーズとしては例えば、「誰もが安全で 安心して 生き生きと暮らせる 鏡野」あるいは「誰もが安全で 安心して 生き生きと暮らせる かがみの里づくり」といったところが、共通したキーワードかと思った。まだ確定ではないため、こういった言葉や、あるいは先ほどのA委員がおっしゃられたように「元気」から「生き生き」という置き換えなど、ぜひご意見をいただきたい。皆様が考えたフレーズや言葉が盛り込まれたキャッチフレーズになればいいと思う。